

軟式野球 実施要項

1. 日時

2026（令和8）年11月14日（土）～16日（月）

2. 会場

S&D 昭島スタジアム、奥戸野球場、オーエンススタジアム江戸川（江戸川区球場）
駒沢オリンピック公園総合運動場（硬式野球場）

3. 主管

公益財団法人東京都軟式野球連盟

4. チーム編成

監督1名。選手20名以内で構成し、各都道府県選手団より、原則として2チームまで参加することを認める。なお、コーチ、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）を1名ずつ別途に加えることができる。主将は選手とする。また、監督、コーチ、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）も選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。

5. 参加資格

- (1) 本大会の参加資格は、下記の通りとする。ただし各都道府県選手団役員（団長、副団長、総監督・総務）、監督、コーチ、マネージャーはこの限りではない。
- ①1986（昭和61）年4月2日から2011（平成23）年4月1日までに出生した者。
 - ②原則、2026（令和8）年5月1日からひきつづき当該都道府県に居住、または在勤・在学する者。
 - ③全日制高等学校の生徒は参加対象としない。
 - ④定時制または通信制高等学校、高等専門学校、各種学校の生徒は一般青年として参加できる。
- (2) **日本青年団協議会に加盟する都道府県青年団組織または各都道府県の大会窓口からの選出または推薦を受けた者。**
- (3) 国内外で職業競技者（演技者・技術者）としての活動実績を有する者は本大会に参加できない。
- (4) 全日本大学軟式野球連盟に加盟する者は本大会に参加できない。
- (5) 不正選手が参加していることが相手チーム、大会本部、審判いずれかによって発見されたときは、当該チーム全員を失格とする。
- ①試合中に発見されたときは、その試合を没収試合とする。

- ②試合後に発見されたときは、勝っていた場合も次の試合に進めない。
- ③いずれの場合も前の試合結果には及ばない。

6. オーバーエイジ

参加資格に、オーバーエイジ枠（以下、OA枠（1986（昭和61）年4月1日以前に出生した者の参加を一部認める））を設ける。OAの選手が参加する場合は登録選手のうち5名以内とする。

7. 参加申込

締切期日をすぎた後の申込および変更は一切受け付けない。

ただし、**団体競技種目で棄権者（理由に関わらず）が発生した場合、参加者の入れ替えを認める。**また、**入れ替え登録は種目別監督会議まで認め、監督会議での報告を義務とする。**入れ替え後の氏名はプログラムには記載されない。なお、書類に不備がある場合は入れ替え登録を認めない。なお、新たに入れ替え登録した参加者の大会参加費及び大会運営費、保険料は発生しないものとし、入れ替える人数より多くの入れ替え登録を行うことはできない。

やむをえず棄権をする場合は、大会本部（試合当日は競技運営本部）まで必ず届けること。

8. 競技方法

（1）今大会の競技は（公財）全日本軟式野球連盟現行規則に準じて行う。

ベンチ入りできるメンバーは監督、コーチ、選手、マネージャー、スコアラー、トレーナー等（有資格者）の他にチーム代表者1名を加えることができる。なお、監督、コーチ、選手以外のユニフォーム着用は認めない。

（2）ベンチは組み合わせ番号の若い方を一塁側として、先攻・後攻はじゃんけんにて行う。

（3）試合は7イニングとし、時間は1時間45分とする。延長戦は原則として行わず、7回終了時において同点の場合は特別方式を最長2イニングまで行い、それでも同点の場合は抽選によって勝敗を決定する。ただし、決勝戦は7イニングを行い同点の場合は、延長戦は9回までとし、なお同点の場合は主催者の判断で特別方式を用いる場合もある。特別方式では継続打順で、前回の最終打者を1塁走者、その前の打者を2塁走者とする。すなわち無死1、2塁の状態にして試合を行う。得点の多いチームを勝ちとする。

<時間制限の解釈について>

- ・先攻チームがリードの6回表に1時間45分が経過した場合
6回裏の後攻チームの攻撃まで行う。
- ・先攻チームがリードで、6回裏の攻撃中に1時間45分が経過した場合
6回裏の後攻チームの攻撃まで行う。
- ・後攻チームがリードで、6回裏の攻撃が始まった後で1時間45分が経過した場合
1時間45分を経過した時点で試合終了とする。審判員から、その時点の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。

(4) コールドゲームについて

得点差によるもの・・・5回以降、7点差とする。ただし、決勝戦には得点差によるコールドゲームを適用しない。

降雨、日没によるもの・・・5回以降審判が中止した時点で正式試合として成立する。

(5) 試合はイニングに関わらず、5回以前でも1時間45分経過した場合は、正式試合として成立する。降雨、日没などで、1時間45分未滿で中止となった場合は、翌日継続試合とする。

(6) チームは指名打者(DH)を1名指名することができる。DH制採用の有無はチームの自由とするが、**先発投手がDHを兼任することはできない。**

(7) 試合前のシートノックについては、時間は5分間を原則として全試合前に実施する。ただし各競技場の状況等によっては省略することがある。

(8) メンバー表は、監督会議において各チームに一冊と1部(5枚複写)を配付する。当日第1試合のチームは試合開始30分前、第1試合以降のチームは前試合の4回終了時に大会本部に1部提出すること。なお、第3試合がトーナメントの勝ち上がりの場合、(決勝)のメンバー表は、第2試合終了後15分後に提出すること。

(9) 試合球は公認M号(ケンコー)を大会本部で用意する。その他の備品は各チームで用意すること。

(10) ユニフォーム(帽子・ストッキングも含む)は原則、チーム全員同色同型とし、野球用スパイクを使用すること。ストレートパンツも着用可能とする。

(11) 背番号は、プログラムに登録された0番から99番までとし、監督30番、主将10番とする。登録された背番号は重複しないこと。また、登録された背番号の変更はできない。なお、企業名、大学名の入ったユニフォームでは出場できない。

(12) 金属バット、ハイコンバット及び捕手のマスクは、連盟公認(J・S・B・B)のマーク入りのものを使用すること。

(13) 打者、次打者、走者及びベースコーチは、S・Gマークのついた連盟公認(J・S・B・B)ヘルメットを着用すること。

(14) 捕手は、プロテクター、レガース、マスク(スロートガード付)、捕手用ヘルメット、ファールカップを着用すること。

(15) 雨天時の場合の対応は以下の通りとする。

①雨天時の対応は、主催者が決定する。ただし、主催者判断で監督会議を緊急開催する場合もある。

②雨天時には球場を移動するチームが出てくる場合があることを了承すること。

③全試合を消化できない場合でも、参加費・大会運営費・保険料は返却しない。

9. 表彰

(1) 表彰は優勝、準優勝、第3位のチームに行う。

(2) 第3位チームには、準決勝終了後各会場で賞状と第3位盾ならびに登録メンバー全員に銅メダルを授与し、表彰する。

(3) 準優勝チームには賞状、準優勝楯並びに登録メンバー全員に銀メダルを授与し、表彰する。

(4) 優勝チームには賞状、優勝旗と優勝カップ並びに登録メンバー全員に金メダルを授与し、表彰する。

(5) 申込終了後、**申込数が8チーム以内であった場合、優勝・準優勝までの表彰とする。**

10. 有事の際の対応

政府による感染症拡大防止に伴う要請や激甚災害等（以降、有事）が生じた場合、下記の通り対応する。

(1) 諸経費について

- ①有事の際の棄権に関わらず、「体育の部要項 8. 参加費」に基づき支払うものとする。
- ②主催者として大会または種目の開催を見送る場合は、参加費、大会運営費、保険料は徴収しない。
すでに納入されている場合は返金を行う。
- ③参加チーム・人数が試合可能数に満たない場合、および主催者として大会または種目の開催を見送る場合において、**大会参加にかかる旅費、宿泊費、キャンセル料その他の諸経費については、主催者として負担しない。**

(2) 主催者及び各競技連盟・協会、各会場、その他関係機関のガイドライン、ならびに自治体からの要請等に沿って実施する。

(3) 記載のない内容については、主催者で判断する。

11. その他

(1) 原則として基準要項、体育の部要項に定めるところによるが、これらと種目別要項が異なる場合には種目別要項が優先される。

(2) 宿泊については、参加者自身で任意に手配することとする。なお、希望者は大会本部を通じて指定宿舎（日本青年館ホテル・国立オリンピック記念青少年総合センター）へ申し込むことも可能である。

(3) 監督・コーチ・アシスタントコーチ・マネージャーが2チーム以上を兼務する場合でも支払うチーム参加費に変更は無い。

(4) 記載のない内容については主催者で判断する。



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター